

I 数学

【本科における教育領域の到達目標】			(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(3)	(3)	(4)
1 目標 専門分野の基本的問題の解決に数学の知識や計算技術を用いることができるとともに、数学の知識等を専門分野での現象に関連付けて活用できる。			(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(3)	(3)	(4)
2 学習内容の取り扱い 学習内容の取り扱いに関しては、次の事項に配慮するものとする。 ・中学校の学習の成果を活用するとともに、専攻科数学および物理・専門科目との連携を密にし、スムーズにカリキュラムが展開するように指導計画を作成する。 ・学習内容の履修学年については特に指定せず、高専毎の独自のカリキュラム設計に沿って柔軟に運用する。 ・学習内容の専門科目での履修を妨げるものではない。 ・下記以外の学習内容を取り扱うことを妨げるものでない。			基礎数学 I	基礎数学 II	代数・幾何	解析学	情報理論	代数・幾何	解析学	応用数学 I
学習内容	到達目標	目標水準								
数と式の計算	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	3							
	因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	3							
	分数式の加減乗除の計算ができる。	3	3							
	実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3	3							
	平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	3							
	複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	3	3							
方程式 不等式	解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3	3							
	因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	3							
	簡単な連立方程式を解くことができる。	3	3							
	無理方程式・分数方程式を解くことができる。	3	3							
	1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3	3							
	恒等式と方程式の違いを区別できる。	3	3							
関数とグラフ	2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	3							
	分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	3							
	簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	3	3							
指数関数 対数関数	累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	3							
	指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	3							
	指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	3							
	対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	3							
	対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	3							
	対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	3							
三角関数	三角比を理解し、簡単な場合について、三角比を求めることができる。	3	3							
	一般角の三角関数の値を求めることができる。	3	3							
	角を弧度法で表現することができる。	3	3							
	三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	3							
	加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	3	3							
	三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	3							

I 数学

【本科における教育領域の到達目標】			(1) 基礎数学 I	(1) 基礎数学 II	(2) 代数・幾何	(2) 解析学	(2) 情報理論	(3) 代数・幾何	(3) 解析学	(4) 応用数学 I
<p>1 目標 専門分野の基本的問題の解決に数学の知識や計算技術を用いることができるとともに、数学の知識等を専門分野での現象に関連付けて活用できる。</p> <p>2 学習内容の取り扱い 学習内容の取り扱いに関しては、次の事項に配慮するものとする。 ・中学校の学習の成果を活用するとともに、専攻科数学および物理・専門科目との連携を密にし、スムーズにカリキュラムが展開するように指導計画を作成する。 ・学習内容の履修学年については特に指定せず、高専毎の独自のカリキュラム設計に沿って柔軟に運用する。 ・学習内容の専門科目での履修を妨げるものではない。 ・下記以外の学習内容を取り扱うことを妨げるものでない。</p>										
学習内容	到達目標	目標水準								
図形と式	2点間の距離を求めることができる。	3	3							
	内分点の座標を求めることができる。	3	3							
	2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	3	3							
	簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	3	3							
	放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。	3	3							
	簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。	3	3							
場合の数	積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	3	3							
	簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	3	3							
数列	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	3		3					
	総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3			3					
	不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3			3					
	無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3			3					
ベクトル	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3		3						
	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3		3						
	平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3		3						
	問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3		3						
	空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3		3						
行列	行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積、行列の積を求めることができる。	3		3						
	逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	3		3						
	行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	3		3			3			
行列の応用	線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。	3						3		
	合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。	3						3		
	平面内の回転に対応する線形変換を表す行列を求めることができる。	3						3		
微分法	簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3			3					
	微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3			3					
	積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3			3					
	合成関数の導関数を求めることができる。	3			3					
	三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3			3					
	逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3			3					

I 数学

【本科における教育領域の到達目標】		(1) 基礎 数学 I	(1) 基礎 数学 II	(2) 代 数 ・ 幾 何	(2) 解 析 学	(2) 情 報 理 論	(3) 代 数 ・ 幾 何	(3) 解 析 学	(4) 応 用 数 学 I
<p>1 目標 専門分野の基本的問題の解決に数学の知識や計算技術を用いることができるとともに、数学の知識等を専門分野での現象に関連付けて活用できる。</p> <p>2 学習内容の取り扱い 学習内容の取り扱いに関しては、次の事項に配慮するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の学習の成果を活用するとともに、専攻科数学および物理・専門科目との連携を密にし、スムーズにカリキュラムが展開するように指導計画を作成する。 ・学習内容の履修学年については特に指定せず、高専毎の独自のカリキュラム設計に沿って柔軟に運用する。 ・学習内容の専門科目での履修を妨げるものではない。 ・下記以外の学習内容を取り扱うことを妨げるものでない。 									
学習内容	到達目標	目標水準							
微分法の応用	関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3			3				
	極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3			3				
	簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3			3				
	2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3			3				
	関数の媒介変数表示を理解し、媒介変数を利用して、その導関数を求めることができる。	3			3				

I 数学

【本科における教育領域の到達目標】			(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(3)	(3)	(4)
1 目標 専門分野の基本的問題の解決に数学の知識や計算技術を用いることができるとともに、数学の知識等を専門分野での現象に関連付けて活用できる。			(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(3)	(3)	(4)
2 学習内容の取り扱い 学習内容の取り扱いに関しては、次の事項に配慮するものとする。 ・中学校の学習の成果を活用するとともに、専攻科数学および物理・専門科目との連携を密にし、スムーズにカリキュラムが展開するように指導計画を作成する。 ・学習内容の履修学年については特に指定せず、高専毎の独自のカリキュラム設計に沿って柔軟に運用する。 ・学習内容の専門科目での履修を妨げるものではない。 ・下記以外の学習内容を取り扱うことを妨げるものでない。			基礎数学 I	基礎数学 II	代数・幾何	解析学	情報理論	代数・幾何	解析学	応用数学 I
学習内容	到達目標	目標水準								
積分法	不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3				3				
	置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3							3	
	定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3							3	
	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3							3	
積分法の応用	簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3							3	
	簡単な場合について、曲線の長さを定積分で求めることができる。	3							3	
	簡単な場合について、立体の体積を定積分で求めることができる。	3							3	
級数	簡単な1変数関数の局所的な1次近似式を求めることができる。	3				3				
	1変数関数のテイラー展開を理解し、基本的な関数のマクローリン展開を求めることができる。	3				3				
	オイラーの公式を理解し、複素数変数の指数関数の簡単な計算や微分ができる。	3				3				
偏微分	2変数関数の定義域を理解し、不等式やグラフで表すことができる。	3							3	
	合成関数の偏微分法を利用して、偏導関数を求めることができる。	3							3	
	簡単な関数について、2次までの偏導関数を求めることができる。	3							3	
	偏導関数を用いて、基本的な2変数関数の極値を求めることができる。	3							3	
重積分	2重積分の定義を理解し、簡単な2重積分を累次積分に直して求めることができる。	3							3	
	極座標に変換することによって2重積分を求めることができる。	3							3	
	2重積分を用いて、簡単な立体の体積を求めることができる。	3							3	
微分方程式	微分方程式の意味を理解し、簡単な変数分離形の微分方程式を解くことができる。	3								3
	簡単な1階線形微分方程式を解くことができる。	3								3
	定数係数2階斉次線形微分方程式を解くことができる。	3								3
確率・統計	独立試行の確率、余事象の確率、確率の加法定理、排反事象の確率を理解し、簡単な場合について、確率を求めることができる。	3					3	3		3
	条件付き確率、確率の乗法定理、独立事象の確率を理解し、簡単な場合について確率を求めることができる。	3					3	3		3
	1次元のデータを整理して、平均・分散・標準偏差を求めることができる。	3					3	3		3
	2次元のデータを整理して散布図を作成し、相関係数・回帰直線を求めることができる。	3					3	3		3

II-A 物理

【本科における教育領域の到達目標】			(1) 物理	(2) 物理	(3) 応用物理 I
物理学の基本知識を修得し、自らの工学分野に応用できる。さらにその過程で、自然現象を系統的・論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身に付ける。 ・物体の運動に関する基礎的な計算をすることができる。 ・熱や波、電気に関する様々な現象を物理法則と関連付けて考えることができる。					
【内容の取扱い】					
・数学や専門科目との連携を密にして、各学習項目、内容の履修学年や順番について十分考慮し、スムーズにカリキュラムが展開できるよう指導計画を作成する。 ・科学技術の進歩に対応し、その理解のために必要となる基礎的な知識を習得できるよう工夫する。 ・実験や観察を通して物理現象を理解し、考察する力を育てることに留意する。					
【専攻科における教育領域の到達目標】					
本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。					
【一般的な科目名】					
物理、応用物理					
学習内容	到達目標	目標水準			
物体の運動(力学分野)	速度と加速度の概念を説明できる。	3	3		3
	平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	3		
	直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	3	3	3
	等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	3		3
	平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3		3	3
	物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3			3
落体の運動(力学分野)	自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	3		
	水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3		3	
いろいろな力(力学分野)	物体に作用する力を図示することができる。	3	3		
	力の合成と分解をすることができる。	3	3		
	質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	3		
	重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	3		
	フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	3		
運動の法則(力学分野)	慣性の法則について説明できる。	3			3
	作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	3		
	運動の法則について説明できる。	3	3		3
	運動方程式を用いた計算ができる。	3	3		3
	簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	3			3
摩擦(力学分野)	静止摩擦力がはたらいっている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	3		
	最大摩擦力に関する計算ができる。	3	3		

II-A 物理

【本科における教育領域の到達目標】			(1) 物理	(2) 物理	(3) 応用物理 I
物理学の基本知識を修得し、自らの工学分野に応用できる。さらにその過程で、自然現象を系統的・論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身に付ける。 ・物体の運動に関する基礎的な計算をすることができる。 ・熱や波、電気に関する様々な現象を物理法則と関連付けて考えることができる。					
【内容の取扱い】					
・数学や専門科目との連携を密にして、各学習項目、内容の履修学年や順番について十分考慮し、スムーズにカリキュラムが展開できるよう指導計画を作成する。 ・科学技術の進歩に対応し、その理解のために必要となる基礎的な知識を習得できるよう工夫する。 ・実験や観察を通して物理現象を理解し、考察する力を育てることに留意する。					
【専攻科における教育領域の到達目標】					
本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。					
【一般的な科目名】					
物理、応用物理					
学習内容	到達目標	目標水準			
	動摩擦力に関する計算ができる。	3	3		
力学的エネルギー (力学分野)	仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	3		
	物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	3		
	重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	3		
	弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	3		
	力学的エネルギー保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる。	3	3		
運動量(力学分野)	物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3		3	
	運動量の差が力積に等しいことを理解し、様々な物理量の計算に利用できる。	3		3	
	運動量保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる。	3		3	
単振動・円運動(力学分野)	周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3			3
	単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3			3
	等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3			3
万有引力(力学分野)	万有引力の法則を説明し、物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3			3
	万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3			3
角運動量(力学分野)	力のモーメントを求めることができる。	3			3
	角運動量を求めることができる。	3			3
	角運動量保存則について理解し、具体的な例を挙げて説明できる。	3			3
剛体(力学分野)	剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3			3
	重心の定義について理解し、重心に関する計算ができる。	3			3
	一様な棒などの簡単な形状に対する慣性モーメントを求めることができる。	3			3

II-A 物理

【本科における教育領域の到達目標】			(1) 物理	(2) 物理	(3) 応用物理 I
物理学の基本知識を修得し、自らの工学分野に応用できる。さらにその過程で、自然現象を系統的・論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身に付ける。 ・物体の運動に関する基礎的な計算をすることができる。 ・熱や波、電気に関する様々な現象を物理法則と関連付けて考えることができる。					
【内容の取扱い】					
・数学や専門科目との連携を密にして、各学習項目、内容の履修学年や順番について十分考慮し、スムーズにカリキュラムが展開できるよう指導計画を作成する。 ・科学技術の進歩に対応し、その理解のために必要となる基礎的な知識を習得できるよう工夫する。 ・実験や観察を通して物理現象を理解し、考察する力を育てることに留意する。					
【専攻科における教育領域の到達目標】					
本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。					
【一般的な科目名】					
物理、応用物理					
学習内容	到達目標	目標水準			
	剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。	3			3
温度と熱(熱分野)	原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	3	3		
	時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを説明できる。	3	3		
	物体の熱容量と比熱を用いた計算ができる。	3	3		
	熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	3	3		
仕事と熱(熱分野)	動摩擦力がする仕事は、一般に熱となることを説明できる。	3		3	
	ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式を用いて、気体の圧力、温度、体積に関する計算ができる。	3		3	
	気体の内部エネルギーについて説明できる。	3		3	
	熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。	3		3	
エネルギー(熱分野)	エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを具体例を挙げて説明できる。	3		3	
	不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。	3		3	
	熱機関について理解し、熱効率に関する計算ができる。	3		3	
波の伝わり方と種類(波動分野)	波の振幅、波長、周期、振動数、速さについて説明できる。	3	3		3
	横波と縦波の違いについて説明できる。	3	3		3
重ね合わせの原理と波の干渉(波動分野)	波の重ね合わせの原理について説明できる。	3	3		3
	波の独立性について説明できる。	3	3		3
	2つの波が干渉するとき、互いに強めあう条件と弱めあう条件について計算できる。	3			3
	定常波の特徴(節、腹の振動のようすなど)を説明できる。	3	3		3
波の反射・屈折・回折(波動分野)	ホイヘンスの原理について説明できる。	3			3
	波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。	3			3

II-A 物理

【本科における教育領域の到達目標】			(1) 物理	(2) 物理	(3) 応用物理 I
物理学の基本知識を修得し、自らの工学分野に応用できる。さらにその過程で、自然現象を系統的・論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身に付ける。 ・物体の運動に関する基礎的な計算をすることができる。 ・熱や波、電気に関する様々な現象を物理法則と関連付けて考えることができる。					
【内容の取扱い】					
・数学や専門科目との連携を密にして、各学習項目、内容の履修学年や順番について十分考慮し、スムーズにカリキュラムが展開できるよう指導計画を作成する。 ・科学技術の進歩に対応し、その理解のために必要となる基礎的な知識を習得できるよう工夫する。 ・実験や観察を通して物理現象を理解し、考察する力を育てることに留意する。					
【専攻科における教育領域の到達目標】					
本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。					
【一般的な科目名】					
物理、応用物理					
学習内容	到達目標	目標水準			
音波・発音体(波動分野)	弦の長さや弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。	3	3		3
	気柱の長さや音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる(開口端補正は考えない)。	3	3		3
	共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。	3	3		3
	一直線上の運動において、ドップラー効果による音の振動数変化を求めることができる。	3			3
光波(波動分野)	自然光と偏光の違いについて説明できる。	3			3
	光の反射角、屈折角に関する計算ができる。	3			3
	波長の違いによる分散現象によってスペクトルが生じることを説明できる。	3			3
電荷(電気分野)	導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。	3		3	
	クーロンの法則が説明できる。	3		3	
	クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気を求めることができる。	3		3	
	電場・電位について説明できる。	3		3	
電流(電気分野)	オームの法則を説明し、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。	3	3		
	抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。	3	3		
	ジュール熱や電力を求めることができる。	3	3		

II-B 物理実験

【本科における教育領域の到達目標】			(1) 物理	(2) 物理	(3) 応用物理 I
学習内容	到達目標	目標水準			
実験・観察を通して物理現象を理解し、考察する力を身に付けるとともに、様々な物理量の測定を通して、実験器具やコンピュータ、情報通信機器などの使い方、レポートの書き方を修得する。さらに測定値のデータ処理において、有効数字の意味や誤差の処理、最小二乗法、グラフの作成など、実験全般に関する基本的な事柄を身に付ける。 ・安全に実験が行えるよう、機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。 ・実験報告書の作成を通じて、書き方に関する基礎的事項を身に付けている。 ・実験結果を座学で学んだ内容と関連付けて考えることができる。					
【内容の取扱い】 ・下に示す6分野の実験のうち、3分野以上の実験(演示実験を含む)を行う。 ・各実験は専門科目も含めた全体の授業の中で実施する。従って物理系座学や、他の専門科目で実施しても良い。 ・コンピュータや情報通信機器など先端技術の活用や、少人数グループでの探究活動、発表など個性的な取り組みが推奨される。					
学習内容	到達目標	目標水準			
安全教育	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3	3		
	安全を確保して、実験を行うことができる。	3	3		
報告書作成	実験報告書を決められた形式で作成できる。	3	3		
	有効数字を考慮して、データを集計することができる。	3	3		
実験(3分野以上)	以下の6分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	-			
	力学に関する分野	3	3	3	3
	熱に関する分野	3	3		
	波に関する分野	3	3		
	光に関する分野	3	3		3
	電磁気に関する分野	3			
	電子・原子に関する分野	3			

II-C 化学

【本科における教育領域の到達目標】 工学的課題に化学的な観点から取り組むことができる基本的な知識として、代表的な材料、物質の成り立ち、化学反応などについての概念を用いたり、必要な計算ができる。 (1) 化学と人間生活、(2) 物質の構成、(3) 物質の変化について理解し、説明できる。			(1) 化学	(2) 化学
【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。				
【一般的な科目名】 化学				
学習内容	到達目標	目標水準		
化学と人間生活のかかわり	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	3	3	
	洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	3	3	
物質の成分	物質が原子からできていることを説明できる。	3	3	
	単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	3	
	同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	3	
	純物質と混合物の区別が説明できる。	3	3	
物質の三態	混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	3	3	
	物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	3		3
	水の状態変化が説明できる。	3		3
気体の状態方程式	物質の三態とその状態変化を説明できる。	3		3
	ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。	3		3
原子の構造	気体の状態方程式を説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。	3		3
	原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	3	3	
	同位体について説明できる。	3	3	
電子配置	放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	3	3	
	原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	3	3	
イオン	価電子の働きについて説明できる。	3	3	
	原子のイオン化について説明できる。	3	3	
元素の周期律	代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3	3	
	原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	3	3	
	元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	3	3	

II-C 化学

【本科における教育領域の到達目標】			(1) 化学	(2) 化学
工学的課題に化学的な観点から取り組むことができる基本的な知識として、代表的な材料、物質の成り立ち、化学反応などについての概念を用いたり、必要な計算ができる。 (1) 化学と人間生活、(2) 物質の構成、(3) 物質の変化について理解し、説明できる。				
【専攻科における教育領域の到達目標】				
本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。				
【一般的な科目名】				
化学				
学習内容	到達目標	目標水準		
イオン結合	イオン式とイオンの名称を説明できる。	3	3	
	イオン結合について説明できる。	3	3	
	イオン結合性物質の性質を説明できる。	3	3	
	イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3	3	
共有結合	共有結合について説明できる。	3	3	
	構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3	3	
金属結合と金属の結晶	自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3	3	
	金属の性質を説明できる。	3	3	
原子量・分子量・式量と物質質量	原子の相対質量が説明できる。	3	3	
	天然に存在する原子が同位体の混合物であり、その相対質量の平均値として原子量を用いることを説明できる。	3	3	
	アボガドロ定数を理解し、物質質量(mol)を用い物質の量を表すことができる。	3	3	
	分子量・式量がどのような意味をもつか説明できる。	3	3	
	気体の体積と物質質量の関係を説明できる。	3	3	
化学反応式	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	3	3	
	化学反応を用いて化学量論的な計算ができる。	3	3	
溶液の濃度	電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	3	3	
	質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。	3	3	
	モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。	3	3	
酸と塩基	酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)を説明できる。	3	3	
	酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。	3	3	
	電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。	3	3	

II-C 化学

【本科における教育領域の到達目標】 工学的課題に化学的な観点から取り組むことができる基本的な知識として、代表的な材料、物質の成り立ち、化学反応などについて概念を用いたり、必要な計算ができる。 (1) 化学と人間生活、(2) 物質の構成、(3) 物質の変化について理解し、説明できる。			(1) 化学	(2) 化学
【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。				
【一般的な科目名】 化学				
学習内容	到達目標	目標水準		
pH	pHを説明でき、pHから水素イオン濃度を計算できる。また、水素イオン濃度をpHに変換できる。	3	3	
中和	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。	3	3	
酸化と還元	酸化還元反応について説明できる。	3	3	
金属のイオン化傾向	イオン化傾向について説明できる。	3	3	
	金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。	3	3	
電池	ダニエル電池についてその反応を説明できる。	3	3	
	鉛蓄電池についてその反応を説明できる。	3	3	
	一次電池の種類を説明できる。	3	3	
	二次電池の種類を説明できる。	3	3	
電気分解	電気分解反応を説明できる。	3	3	
	電気分解の利用として、例えば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。	3	3	
	ファラデーの法則による計算ができる。	3	3	

II-D 化学実験

【本科における教育領域の到達目標】			(1) 化学	(2) 化学
化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高めるための実験からなる教育領域である。 ・安全に実験が行えるように、薬品や火気の取り扱いなどを理解し、代表的な器具の取り扱い、基本操作(気体発生、ろ過等)ができる。 ・目的に応じた適切な測定テーマを選択し、測定データをもとに必要な計算や考察をしてレポートを作成できる。				
【専攻科における教育領域の到達目標】				
本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。				
【一般的な科目名】				
・本科:化学実験				
学習内容	到達目標	目標水準		
安全	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	3	3	3
	事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	3	3	3
レポート作成	測定と測定値の取り扱いができる。	3	3	3
	有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	3	3	3
	レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	3	3	3
基本操作	ガラス器具の取り扱いができる。	3	3	3
	基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	3	3	3
	試薬の調製ができる。	3	3	3
	代表的な気体発生の実験ができる。	3		3
	代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。	3		3

Ⅱ-E ライフサイエンス・アースサイエンス

<p>【本科における教育領域の到達目標】 環境面や生態面に配慮して工学に取り組むための基本的なライフサイエンス・アースサイエンスの基礎知識を身に付ける。 (1) 地球の概観、内部と活動 惑星としての地球の特徴及び地球表層や内部に見られる地学的事象を理解し、地球表層や内部を相互に関連して、地球の歴史の経過の中でとらえることができる。 (2) 生命の共通性と多様性 地球上の生物が多様であり、かつ共通性があることを理解している。 (3) 大気と海洋 地球の大気圏及び水圏での現象を理解し、それらが太陽放射エネルギーを原動力としていることを理解すること。また、気象との関係を説明できる。 (4) 地球上の植生、生態系 日本および世界には様々なバイオームがあることを知り、その成因について理解していること。生態系の成り立ちについて理解している。 (5) 人間活動と地球環境の保全 人間活動と地球環境の保全について考えることができる。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 総合理科</p>			(1) G l o b a l L i f e S c i e n c e
学習内容	到達目標	目標水準	
地球の概観	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。	3	3
	地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。	3	3
	陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。	3	3
地球の内部と活動	地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。	3	3
	マグマの生成と火山活動を説明できる。	3	3
	地震の発生と断層運動を理解できる。	3	3
	地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。	3	3
	プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて説明できる。	3	3
生物の多様性と共通性	地球上の生物の多様性について説明できる。	3	3
	生物の共通性と進化の関係について説明できる。	3	3
	生物に共通する性質について説明できる。	3	3
	大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。	3	3

II-E ライフサイエンス・アースサイエンス

<p>【本科における教育領域の到達目標】 環境面や生態面に配慮して工学に取り組むための基本的なライフサイエンス・アースサイエンスの基礎知識を身に付ける。</p> <p>(1) 地球の概観、内部と活動 惑星としての地球の特徴及び地球表層や内部に見られる地学的事象を理解し、地球表層や内部を相互に関連して、地球の歴史の経過の中でとらえることができる。</p> <p>(2) 生命の共通性と多様性 地球上の生物が多様であり、かつ共通性があることを理解している。</p> <p>(3) 大気と海洋 地球の大気圏及び水圏での現象を理解し、それらが太陽放射エネルギーを原動力としていることを理解すること。また、気象との関係を説明できる。</p> <p>(4) 地球上の植生、生態系 日本および世界には様々なバイオームがあることを知り、その成因について理解していること。生態系の成り立ちについて理解している。</p> <p>(5) 人間活動と地球環境の保全 人間活動と地球環境の保全について考えることができる。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 総合理科</p>			(1) G l o b a l L i f e S c i e n c e
学習内容	到達目標	目標水準	
大気と海洋	大気の大気熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。	3	3
	大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。	3	3
	海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。	3	3
地球上の植生	植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。	3	3
	世界のバイオームとその分布について説明できる。	3	3
	日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。	3	3
生態系	生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	3	3
	生態ピラミッドについて説明できる。	3	3
	生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	3	3
人間活動と地球環境の保全	熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	3	3
	有害物質の生物濃縮について説明できる。	3	3
	地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	3	3

Ⅲ-A 国語

<p>【本科における教育領域の到達目標】</p> <p>専門とする分野を含んで広く日本語を対象に、より高度な理解と柔軟な発想・思考を踏まえ、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションを主体的に行える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。 ・専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 ・情報を収集して分析整理し、構成を工夫して報告・論文を作成し、口頭発表できる。 ・根拠にもとづいて議論し、新たな発想や他者の視点の理解に努め、集団としての思いや考えをまとめることができる。 <p>【内容の取扱い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここに掲げる「本科における教育領域の到達目標」は、「国語」の授業科目のみで達成されるものではない。これは、「国語」の授業科目で育むべき言語能力の向上が、他の授業科目においても言語活動の充実の取り組みにより図られているためである。 しかし、すべての学習の基盤である言語能力の向上において、「国語」はその中心を担っている。そのため、「到達目標」の大部分は「国語」の授業科目が「中心」となって、他の授業科目と連携しながら達成すべきものとして掲げている。 なお、一部の到達目標(論文や専門の分野に関する用語、インターネットからの情報収集に係るもの)については、その達成自体は他の授業科目が中心となるが、その達成に至るまでに備えるべき知識・能力は「国語」の授業科目が中心となって育む。 ・言語能力の向上のためには、「国語」と「国語」以外の授業科目との連携が重要である。なかでも、「報告や論文に関すること、文字以外のものを含む情報の取り扱い全般、論理の構成と展開、口頭発表、議論、新たな発想や視点の獲得、自分の思いや考えの整理と深化」については、他の授業科目との密接な連携、言語能力向上の観点に立つ学校の教育活動全体を通じたカリキュラム・マネジメントが欠かせない。 <p>【一般的な科目名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、国語総合、国語表現、現代文、日本語コミュニケーション 			(1) 国語 I	(2) 国語 II	(3) 国語 III	(3) 情報倫理	(3) 情報工学実験 II	(4) 情報工学実験 III	(4) 課題研究	(5) 卒業研究	(5) 情報工学実験 IV
学習内容	到達目標	目標水準									
現代の文章	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	1	2	3						
	論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	1	2	3						
	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	1	2	3						
	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	1	2	3						
	類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	1	2	3						
	社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	1	2	3						
	専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	1	2	2		3	3	3	3	
表現・コミュニケーション	実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	1	2	3	3					
	報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	1	2	2			3	3	3	
	収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	1	2	2		3	3	3	3	
	報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	1	2	2		3	3	3	3	
	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	1	2	2		3	3	3	3	
	課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	1	2	2		3	3	3	3	
	相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	1	2	2		3	3	3	3	
<p>・モデルコアカリキュラムにおける学習内容および到達目標には「古典」を掲げていないが、そこで培えるものは少なくない。このことから、高専において「古典」の授業を行う場合に、「国語」の授業科目のみの到達目標となり得るものを次に示す。</p>											
学習内容	「国語」の授業科目のみの到達目標										
古典	伝統的な言語文化への興味・関心を広く持ち、その特徴を説明できる。										
	いくつかの代表的な古典に描かれた、ものの見方を理解し、自分の意見を述べるができる。										

III-B 英語

【本科における教育領域の到達目標】			(1)	(2)	(2)	(2)	(3)	(3)	(5)
・英語運用の基礎となる知識や技能を習得し、実際の場面での英語の使用に役立てることができる。(1～5年次)			英語 I	O	r	a	l	C	o
・相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができる。(1～5年次)									
・日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。(1～3年次)			I	C	o	m	m	u	n
・社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができる。(3～5年次)									
【内容の取扱い】			I	C	o	m	m	u	n
・英語運用能力の向上のためには「英語」とそれ以外の授業科目が連携すること、また様々な「実際の運用の機会」を作り出すことが重要である。例えば、パラグラフライティング等の論理的な文章の構成などは国語や社会などの日本語でまとまりのある文章を作成する科目と理念を共有して教育を進めることで効果はさらに上がるものとする。また、英文アブストラクトや実験報告の書式、加えて報告すべき内容の整理などについては、専門科目と連携して教育内容を精査することで、より実際に近い運用の場面で再現できるものと期待する。いずれにしても、実際の場面での運用を目的とした学習が実現できるよう、他の科目も含めた総合的なカリキュラムデザインが望まれる。									
・口頭発表の質疑応答や、ディベート、ディスカッションは英語運用の実践としては非常に高い能力が要求される。本科卒業時にはその能力の「完成」というより、「準備・基礎」が到達目標の意図するところであると理解されたい。			I	C	o	m	m	u	n
・英語を実際の場面でのコミュニケーションに応用するには、基礎的な知識を習得しておくことに加え、相手の文化や立場を尊重した上で積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を持つことが重要である。今回の到達目標におけるそうした要素は教室の中だけでなく、短期・中期の国際交流の場面(機会)を有効利用することでより効果が上がるものとする。									
・到達目標は、コアを示したものであり、それ以外の学習内容(例えば、英会話や、アカデミックライティング、ビジネス英語、など)も必要に応じて積極的に取り入れられたい。			I	C	o	m	m	u	n
【一般的な科目名】									
・英語(I～V)、英語コミュニケーション(I～V)、英語表現、総合英語、など。			I	C	o	m	m	u	n
学習内容	到達目標								
英語運用知識の基礎と	発音	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	1	1	2	2	3	3
		明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	1	1	2	2	3	3
	語彙	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切に運用できる。	3	1	1	2	2	3	3
		中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	1	1	2	2	3	3
英語運用能力の基礎固め	英語コミュニケーション	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	1	1	2	2	3	3
		日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	1	1	2	2	3	3
		説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	1	1	2	2	3	3
		平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	1	1	2	2	3	3
		日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	1	1	2	2	3	3
		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	1	1	2	2	3	3
		実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	1	1	2	2	3	3
英語運用能力向上のための学習	英語コミュニケーション	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	1	1	2	2	3	3
		英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	1	1	2	2	3	3
		英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	1	1	2	2	3	3
		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	1	1	2	2	3	3
		関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的な文章の構成に留意して書くことができる。	3	1	1	2	2	3	3
		関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	1	1	2	2	3	3
		関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	1	1	2	2	3	3
英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	1	1	2	2	3	3		
実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	1	1	2	2	3	3		

Ⅲ-C 社会

<p>【本科における教育領域の到達目標】</p> <p>○国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として主体的に社会に参画し、社会が抱える諸問題の解決のために人文・社会科学の知識・理論・情報を利用できる。</p> <p>【内容の取扱い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理歴史的分野、公民的分野が相互に関係しあうことに留意して学習を進めること。 ・「社会」の「学習内容」の一部は、「Ⅳ-B 技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史(技術者倫理の基本と実践、情報倫理、環境倫理、国際貢献・地域貢献、知財教育、法令順守、技術史の基本と実践、持続可能性などの学習内容)」や「Ⅳ-C 情報リテラシー」、「Ⅳ-D グローバリゼーション・異文化多文化理解の学習内容」、「Ⅱ-E ライフサイエンス・アースサイエンス」、「Ⅶ 汎用的技能」、「Ⅷ 態度・志向性(人間力)」と深く関連していることに留意して学習を進めること。 ・裁判員制度が施行されていること、選挙権の行使が18歳より可能になったことを踏まえ、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養うことに留意して学習を進めること。 <p>【一般的な科目名】</p> <p>地理、世界史、日本史、現代社会、倫理、政治・経済</p>			(1) Global Awareness	(1) 現代社会	(1) 地理	(2) 日本史	(3) 世界史
学習内容	到達目標	目標水準					
※地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3			3		
	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3			3		
	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3				1	3
	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3				1	3
	第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3				1	3
	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3				1	3
※公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3		3			
	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3		3			
現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	3				

「地理歴史的分野」、「公民的分野」は、必ずしも教科・科目名を意味するものではない。また、
 ※ 言うまでもなく「到達目標」がどの「学習内容」に属するかは固定的でなく、「地理歴史的分野」が
 公民の科目で「公民的分野」が地理歴史の科目で達成されることはあり得る。

IV-A 工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)

<p>【本科における教育領域の到達目標】 工学実験技術は実験計画、安全にも配慮した実験実施、結果の整理と考察までの基本的かつ必須の到達目標である。また工学実験を実施する上で基本的な態度を身に付け実践できることも目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な手順に従って、基本的な実験実習を実施できる。 必要なデータを整理し、その結果に基づいた論理的な考察ができる。 実験を通して課題を解決する上での基本的ルールを守ることができる。 <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工学実験 			(1) 化学	(1) 物理	(1) 国際創造工学基礎
学習内容	到達目標	目標水準			
実験・計測・分析方法	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	3	3	3	2
	実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3	3	3	2
	実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	3	3	3	2
考察・レポート作成	実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3	3	3	2
	実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3	3	3	2
	実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	3		3	
	実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3		3	
実験・実習に関わる態度	実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3	3	3	
	個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3	3	3	
	共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	3	3	3	
	レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3	3	3	

IV-B 技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史

<p>【本科における教育領域の到達目標】 技術者倫理、技術者としての社会的責任、現代に至るまでの技術の発展がもたらしてきた影響をもとに、責任ある行動をとるための基本的な事柄について理解することを目標とする。 ・技術者倫理、情報倫理、環境倫理、法令順守、社会の持続可能性に基づいて、技術者としてとるべき行動を説明することができる。 ・国際社会および地域の発展に対しての技術者の役割を説明できる。 ・知的財産の重要性や活用の重要性を理解している。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 ・技術者倫理、法律、知的財産、技術史、地域社会、現代社会</p>			(1) 国際創造工学基礎	(1) 情報リテラシー	(2) コンピューターアーキテクチャ基礎	(3) 情報倫理	(3) 情報工学実験Ⅱ	(3) 特別活動	(4) ソフトウェア工学
学習内容	到達目標	目標水準							
技術者倫理の基本と実践	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	3			3	3		3
	社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	3			3	3		
	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3			3	3	3		
	現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3				3	3		
情報倫理	情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3		3		3			
	高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3		3		3			
環境倫理	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3			3				
	環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3			3				
国際貢献・地域貢献	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3						3	
	過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3						3	
知的財産	知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3				3			3
	知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3				3			3
法令順守	技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3				3	3		
	技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3					3	3	
技術史の基本と実践	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	3						
	科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	3						
持続可能性	全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3							3
	技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3							3

IV-C 情報リテラシー

<p>【本科における教育領域の到達目標】 専門分野によらずセキュリティーに配慮して情報技術を活用し、課題解決のための基本的なアルゴリズムを考え、実装できるようになることを目標とする。 ・情報を収集、処理、発信するための基本的なハードウェア、ソフトウェアに関する知識を活用できる。 ・特定の課題に対し、アルゴリズムを考え、実装することができる。 ・情報セキュリティーに配慮した基本的な情報収集・発信、情報の保護ができる。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 ・プログラミング、基礎情報工学</p>			(1) 情報リテラシー	
学習内容	到達目標	目標水準		
情報の基礎	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	3	
	論理演算と進数変換の仕組みを用いて基本的な演算ができる。	3	3	
	コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。	3	3	
情報ネットワーク	情報伝達システムやインターネットの基本的な仕組みを把握している。	3	3	
アルゴリズム	同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在しうることを知っている。	3	3	
	与えられた基本的な問題を解くための適切なアルゴリズムを構築することができる。	3	3	
	任意のプログラミング言語を用いて、構築したアルゴリズムを実装できる。	3	3	
情報セキュリティ	情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。	3	3	
	個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮ができる。	3	3	
	インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している	3	3	
	インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。	3	3	

IV-D グローバリゼーション・異文化多文化理解

<p>【本科における教育領域の到達目標】 将来諸外国の人々と良好な関係を築いて仕事を進めていくことを想定し、必要な知識や果たすべき役割、とるべき態度を理解することを目標とする。 ・諸外国の文化・習慣・価値観等を理解し、尊重しなければならないことを知っている。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 ・異文化交流、地理、歴史、海外研修</p>			(1) G l o b a l A w a r e n e s s	(1) 地 理	(3) 世 界 史	(3) 特 別 活 動	(4) 研 修 旅 行
学習内容	到達目標	目標水準					
グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3		3	3		
	様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3		3	3		
	異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	3				
	それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3				3	3

V-D-1 プログラミング

【本科における教育領域の到達目標】		到達目標	到達目標	(2)	(3)
【専攻科における教育領域の到達目標】					
<p>プログラミング系領域は、プログラムの書き方、書かれたプログラムの読み方、ソフトウェア生成に必要なツール類の仕組みと使い方を学習する領域である。</p> <p>・プログラミング分野では、ソフトウェア作成に必要な基礎概念およびソフトウェアの作成工程を理解し、少なくとも一つのプログラミング言語(言語処理系)を用いて簡単なソフトウェアを生成できること。</p> <p>・プログラミング言語分野では、言語処理系を構成する各種ツールの役割や機能を理解しており、各種プログラミング言語が意味付けに使われる計算モデルの違いにより分類されることを理解している。</p>				プログラミング I	プログラミング II
【一般的な科目名】					
<p>・本科:プログラミング、プログラミング演習、プログラミング言語</p> <p>・専攻科:プログラミング言語、ソフトウェア設計</p>					
学習内容	到達目標	到達目標			
プログラミングの要素	変数の概念を説明できる。	4	4		
	データ型の概念を説明できる。	4	4		
	代入や演算子の概念を理解し、式を記述できる。	4	4		
	制御構造の概念を理解し、条件分岐を記述できる。	4	4		
	制御構造の概念を理解し、反復処理を記述できる。	4	4		
	プロシージャ(または、関数、サブルーチンなど)の概念を理解し、これらを含むプログラムを記述できる。	4	4		
ソフトウェアの作成	与えられた問題に対して、それを解決するためのソースプログラムを記述できる。	4	4		
	与えられたソースプログラムを解析し、プログラムの動作を予測することができる。	4	4		
	ソフトウェア生成に必要なツールを使い、ソースプログラムをロードモジュールに変換して実行できる。	4	4		
言語処理系	主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を説明できる。	4			4
	ソフトウェア開発に利用する標準的なツールの種類と機能を説明できる。	4			4
計算モデル	プログラミング言語は計算モデルによって分類されることを説明できる。	4			4
	主要な計算モデルを説明できる。	4			4
実践的プログラミング	要求仕様に従って、いずれかの手法により動作するプログラムを設計することができる。	4			4
	要求仕様に従って、いずれかの手法により動作するプログラムを実装することができる。	4			4
	要求仕様に従って、標準的な手法により実行効率を考慮したプログラムを設計できる。	4			4
	要求仕様に従って、標準的な手法により実行効率を考慮したプログラムを実装できる。	4			4

V-D-2 ソフトウェア

<p>【本科における教育領域の到達目標】 ソフトウェア系領域は、問題を解決する手順という視点でソフトウェアを抽象化した概念であるアルゴリズムとデータ構造について学ぶ領域である。 ・アルゴリズム分野とデータ構造分野では、問題解決を効率よく行うにはアルゴリズムとデータ構造の選択が重要であると説明できる。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 ・本科:プログラミング、アルゴリズムとデータ構造 ・専攻科:ソフトウェア工学、ソフトウェア設計</p>			(2) プログラ ミング I	(3) デー タ 構 造 と アル ゴ リ ズ ム I	(4) ソフ トウ ェ エ 学	(4) プロ グ ラ ミ ン グ 応 用
学習内容	到達目標	到達目標				
アルゴリズム	アルゴリズムの概念を説明できる。	4	4			
	与えられたアルゴリズムが問題を解決していく過程を説明できる。	4	4			
	同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在しうることを説明できる。	4				4
	時間計算量によってアルゴリズムを比較・評価できることを説明できる。	4				4
	領域計算量などによってアルゴリズムを比較・評価できることを説明できる。	4				4
	整列、探索など、基本的なアルゴリズムについて説明できる。	4		4		
データ構造	コンピュータ内部でデータを表現する方法(データ構造)にはバリエーションがあることを説明できる。	4		4		
	同一の問題に対し、選択したデータ構造によってアルゴリズムが変化しうることを説明できる。	4		4		
	リスト構造、スタック、キュー、木構造などの基本的なデータ構造の概念と操作を説明できる。	4	4	4		
	リスト構造、スタック、キュー、木構造などの基本的なデータ構造を実装することができる。	4	4	4		
ソフトウェア工学	ソフトウェアを中心としたシステム開発のプロセスを説明できる。	4			4	
プログラム解析	ソースプログラムを解析することにより、計算量等のさまざまな観点から評価できる。	4				4
	同じ問題を解決する複数のプログラムを計算量等の観点から比較できる。	4				4

V-D-3 計算機工学

<p>【本科における教育領域の到達目標】 計算機工学系領域は、現在主流となっているデジタルコンピュータのハードウェアの原理や、実際のコンピュータに利用されているハードウェア要素について学ぶ領域である。 ・論理回路分野では、データをデジタル表現する原理とデジタル表現されたデータを処理する原理を理解し、データを処理するための簡単な回路を設計できる。 ・コンピュータアーキテクチャ分野では、デジタルコンピュータの構成や実際に用いられる構成要素の機能を理解し、その中で利用されている主要な技術を理解している。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 ・本科:論理回路、コンピュータアーキテクチャ、コンピュータ基礎、情報数学、情報リテラシー ・専攻科:ハードウェア設計</p>			(2) (2) (2) (3) (4)	(2) 情報理論	(2) 論理回路 I	(3) 論理回路 II	(4) 情報工学実験 III
学習内容	到達目標	到達目標					
数の体系	整数を2進数、10進数、16進数で表現できる。	4		4			
	小数を2進数、10進数、16進数で表現できる。	4		4			
	整数・小数をコンピュータのメモリ上でデジタル表現する方法を説明できる。	4		4			
	基数が異なる数の間で相互に変換できる。	4		4			
論理関数	基本的な論理演算を行うことができる。	4			4		
	基本的な論理演算を組合わせて、論理関数を論理式として表現できる。	4			4		
	論理式の簡単化の概念を説明できる。	4			4		
	簡単化の手法を用いて、与えられた論理関数を簡単化することができる。	4			4		
組合せ論理回路	論理ゲートを用いて論理式を組合せ論理回路として表現することができる。	4	4		4		
	与えられた組合せ論理回路の機能を説明することができる。	4	4		4		
	組合せ論理回路を設計することができる。	4	4		4	4	
順序回路	フリップフロップなどの順序回路の基本素子について、その動作と特性を説明することができる。	4	4		4	4	
	レジスタやカウンタなどの基本的な順序回路の動作について説明できる。	4	4		4	4	
	与えられた順序回路の機能を説明することができる。	4	4		4	4	
	順序回路を設計することができる。	4	4		4	4	
コンピュータのハードウェア	コンピュータを構成する基本的な要素の役割とこれらの間でのデータの流れを説明できる。	4	4				
	プロセッサを実現するために考案された主要な技術を説明できる。	4	4				
	メモリシステムを実現するために考案された主要な技術を説明できる。	4	4				
	入出力を実現するために考案された主要な技術を説明できる。	4	4				
	コンピュータアーキテクチャにおけるトレードオフについて説明できる。	4	4				
ハードウェア設計	要求仕様に従って、標準的なプログラマブルデバイスやマイコンを用いたシステムを構成することができる。	4				4	
	ハードウェア記述言語など標準的な手法を用いてハードウェアの設計、検証を行うことができる。	4				4	

V-D-4 コンピュータシステム

<p>【本科における教育領域の到達目標】 コンピュータシステム系領域は、コンピュータシステムの全体像を理解するための領域である。 ・コンピュータシステム分野では、実用に供せられているものを中心に、コンピュータシステムの各種形態を理解している。 ・システム設計分野では、まずシステム全体の仕様が確定され、これに基づいてハードウェアとソフトウェアの機能分担がなされるという設計プロセスの大きな流れを説明できる。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 ・本科: コンピュータアーキテクチャ、システム工学、計算機システム、システム設計 ・専攻科: システム設計</p>			(2)	(4)
			コンピュータアーキテクチャ基礎	ソフトウェア工学
学習内容	到達目標	到達目標		
コンピュータシステム	集中処理システムについて、それぞれの特徴と代表的な例を説明できる。	4	4	
	分散処理システムについて、特徴と代表的な例を説明できる。	4	4	
	ネットワークコンピューティングや組み込みシステムなど、実用に供せられているコンピュータシステムの利用形態について説明できる。	4	4	
	デュアルシステムやマルチプロセッサシステムなど、コンピュータシステムの信頼性や機能を向上させるための代表的なシステム構成について説明できる。	4	4	
システム設計	システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを説明できる。	4	4	4
	ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。	4		4
	プロジェクト管理の必要性について説明できる。	4		4
	WBSやPERT図など、プロジェクト管理手法の少なくとも一つについて説明できる。	4		4
	ER図やDFD、待ち行列モデルなど、ビジネスフロー分析手法の少なくとも一つについて説明できる。	4		4

V-D-5 システムプログラム

<p>【本科における教育領域の到達目標】 システムプログラム系領域は、コンピュータを効率よく利用するために不可欠なオペレーティングシステムについて学ぶ領域である。 ・オペレーティングシステム分野では、コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの役割や機能を説明できる。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 ・本科:オペレーティングシステム、計算機システム ・専攻科:言語処理</p>			(4)	(4)
		システムプログラム系領域は、コンピュータを効率よく利用するために不可欠なオペレーティングシステムについて学ぶ領域である。 ・オペレーティングシステム分野では、コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの役割や機能を説明できる。	オペレーティングシステム	オペレーティングシステム
学習内容	到達目標	到達目標		
オペレーティングシステムの基礎	コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの位置づけを説明できる。	4		4
	プロセス管理やスケジューリングなどCPUの仮想化について説明できる。	4		4
	排他制御の基本的な考え方について説明できる。	4		4
	記憶管理の基本的な考え方について説明できる。	4		4
コンパイラ	形式言語の概念について説明できる。	4	4	
	形式言語が制限の多さにしたがって分類されることを説明できる。	4	4	
	オートマトンの概念について説明できる。	4	4	
	正規表現と有限オートマトンの関係を説明できる。	4	4	
	コンパイラの役割と仕組みについて説明できる。	4	4	

V-D-6 情報通信ネットワーク

<p>【本科における教育領域の到達目標】 情報通信ネットワーク系領域は、社会インフラの一つである情報通信ネットワークの仕組みやこれを支える基礎技術を学ぶ領域である。 ・情報通信ネットワーク分野では、プロトコルの階層化の概念を理解し、それを具現化しているプロトコル体系の一つであるインターネットプロトコルスイートを取り上げ、これに関わる具体的かつ標準的な技術を理解し、実践できる。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 ・本科:情報通信ネットワーク、計算機システム ・専攻科:コンピュータネットワーク、プログラミング応用</p>			(3) 情報 ネット ワーク I
学習内容	到達目標	到達目標	
階層化プロトコル	プロトコルの概念を説明できる。	4	4
	プロトコルの階層化の概念や利点を説明できる。	4	4
ローカルエリアネットワークとインターネット	ローカルエリアネットワークの概念を説明できる。	4	4
	インターネットの概念を説明できる。	4	4
	TCP/IPの4階層について、各層の役割を説明でき、各層に関係する具体的かつ標準的な規約や技術を説明できる。	4	4
ネットワーク応用	主要なサーバの構築方法を説明できる。	4	4
	ネットワークを構成するコンポーネントの基本的な設定内容について説明できる。	4	4
	無線通信の仕組みと規格について説明できる。	4	4
	有線通信の仕組みと規格について説明できる。	4	4
	SSH等のリモートアクセスの接続形態と仕組みについて説明できる。	4	4
	基本的なルーティング技術について説明できる。	4	4
	基本的なフィルタリング技術について説明できる。	4	4
	情報通信ネットワークを利用したアプリケーションの作成方法を説明できる。	4	4

V-D-7 情報数学・情報理論

<p>【本科における教育領域の到達目標】 情報数学・情報理論系領域は、コンピュータサイエンスに必要とされる数学的基礎理論を理解するための基礎を学ぶ領域である。 ・離散数学分野では、記号を扱う数学的概念の総称である離散構造の範疇の中で、特にコンピュータサイエンスに関係深い概念を理解している。 ・数値処理分野では、コンピュータ上で数値を表現したり計算したりする際に発生する誤差が処理結果に悪影響を与えることを理解している。</p> <p>【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。</p> <p>【一般的な科目名】 ・本科:情報数学、デジタル基礎、コンピュータ基礎、数値解析、数値計算 ・専攻科:ソフトウェア設計、数値解析、数値計算、情報理論</p>			(2) 情報理論	(2) 論理回路 I	(3) プログラミング II	(3) 離散数学 I	(3) データ構造とアルゴリズム I
学習内容	到達目標	到達目標					
離散数学	集合に関する基本的な概念を理解し、集合演算を実行できる。	4	4			4	
	集合の間の関係(関数)に関する基本的な概念を説明できる。	4	4			4	
	ブール代数に関する基本的な概念を説明できる。	4		4			
	論理代数と述語論理に関する基本的な概念を説明できる。	4				4	
離散数学応用	離散数学に関する知識をアルゴリズムの設計、解析に利用することができる。	4				4	
数値処理と誤差	コンピュータ上での数値の表現方法が誤差に関係することを説明できる。	4			4		
	コンピュータ上で数値計算を行う際に発生する誤差の影響を説明できる。	4			4		
数値計算	コンピュータ向けの主要な数値計算アルゴリズムの概要や特徴を説明できる。	4			4		
情報理論	情報量概念・定義を理解し、実際に計算することができる。	4	4				
	情報源のモデルと情報源符号化について説明できる。	4	4				
	通信路のモデルと通信路符号化について説明できる。	4	4				

V-D-8 その他の学習内容

【本科における教育領域の到達目標】 その他の学習内容領域は、情報技術に精通した技術者が活動する上で知っておくべき、コンピュータに関する必須事項を学ぶ領域である。 ・電気電子分野では、直流回路に関する基本的な計算ができ、情報機器で用いられている基本的な半導体素子について理解している。 ・リテラシー分野では、コンピュータを業務で活用するための基本技術を習得していること。 ・セキュリティ分野では、工学的活動と日常的活動において遭遇する情報化社会特有の脅威と、それに対する対策を理解している。			(2) プログラミング I	(2) 情報理論	(2) 論理回路 I	(2) 情報工学実験 I	(3) 情報倫理	(3) 情報ネットワーク I	(4) 情報工学実験 III	(4) プログラミング応用	(4) データベース	(4) オペレーティングシステム
【専攻科における教育領域の到達目標】 本科での学習内容を、より応用的・実践的な課題解決に活用できること。												
【一般的な科目名】 ・本科: 電気電子工学、情報リテラシー ・専攻科: データベース、メディア情報処理												
学習内容	到達目標	到達目標										
電気電子基礎	オームの法則、キルヒホッフの法則を利用し、直流回路の計算を行うことができる。	4			4							
	トランジスタなど、デジタルシステムで利用される半導体素子の基本的な特徴について説明できる。	4			4							
リテラシー	少なくとも一つの具体的なコンピュータシステムについて、起動・終了やファイル操作など、基本的操作が行える。	4	4			4						
	少なくとも一つの具体的なオフィススイート等を使って、文書作成や図表作成ができ、報告書やプレゼンテーション資料を作成できる。	4				4			4			
	少なくとも一つのメールツールとWebブラウザを使って、メールの送受信とWebブラウジングを行うことができる。	4				4				4		
セキュリティ	コンピュータウイルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇する代表的な脅威について説明できる。	4					4	4				
	コンピュータを扱っている際に遭遇する脅威に対する対策例について説明できる。	4					4	4				
	基本的な暗号化技術について説明できる。	4		4				4				
	基本的なアクセス制御技術について説明できる。	4						4			4	4
	マルウェアやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇する代表的な脅威について説明できる。	4					4	4				
データベース	データモデル、データベース設計法に関する基本的な概念を説明できる。	4									4	
	データベース言語を用いて基本的なデータ問い合わせを記述できる。	4									4	
メディア情報処理	デジタル信号とアナログ信号の特性について説明できる。	4						4				
	情報を離散化する際に必要な技術ならびに生じる現象について説明できる。	4						4		4		
	メディア情報の主要な表現形式や処理技法について説明できる。	4						4		4		

VI-D 情報系分野(実験・実習能力)

【本科における教育領域の到達目標】			(2)	(3)	(4)	(5)
情報工学実験・実習領域では、情報工学に関する基本的な知識や技術を実験実習や机上での演習を通じて、体験的に修得することを目的とする領域である。						
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング基礎実習分野では、ソフトウェアの標準的な開発ツールや開発環境の利用経験を通じて、簡単なソフトウェアの生成とその動作確認ができる。 ・論理回路設計実習では、簡単な組合せ論理回路と順序回路を設計できる。 ・開発環境構築実習では、目的に合った開発環境の利用および構築ができる。 ・アプリケーションの設計と製作では、仕様に合ったプログラムを作成し、実行結果を得ることができる。 			情報工学実験 I	情報工学実験 II	情報工学実験 III	情報工学実験 IV
【専攻科における教育領域の到達目標】						
本科での学習内容をより応用的・実践的な課題解決に活用できること。						
【一般的な科目名】						
・本科: 工学実験、ソフトウェア演習、論理回路						
学習内容	到達目標	到達目標				
プログラミング基礎実習	与えられた問題に対してそれを解決するためのソースプログラムを、標準的な開発ツールや開発環境を利用して記述できる。	4	3	4	4	4
	フローチャートなどを用いて、作成するプログラムの設計図を作成することができる。	4		4	4	4
	ソフトウェア生成に利用される標準的なツールや環境を使い、ソースプログラムをロードモジュールに変換して実行できる。	4	3	4	4	4
	問題を解決するために、与えられたアルゴリズムを用いてソースプログラムを記述し、得られた実行結果を確認できる。	4	3	4	4	4
論理回路設計実習	ソフトウェア開発の現場において標準的とされるツールを使い、生成したロードモジュールの動作を確認できる。	4	3	4	4	4
	基礎的な論理回路を構築し、指定された基本的な動作を実現できる。	4	3	4	4	4
	論理回路などハードウェアを制御するのに最低限必要な電気電子測定ができる。	4		4	4	4
開発環境構築実習	与えられた仕様に合致した組合せ論理回路や順序回路を設計できる。	4	3	4	4	4
	標準的な開発ツールを用いてプログラミングするための開発環境構築ができる。	4	4	4	4	4
アプリケーションの設計と製作	要求仕様にあったソフトウェア(アプリケーション)を構築するために必要なツールや開発環境を構築することができる。	4	3	4	4	4
	要求仕様に従って標準的な手法によりプログラムを設計し、適切な実行結果を得ることができる。	4	3	4	4	4

Ⅶ 汎用的技能

【本科における教育領域の到達目標】 他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の意見を正しく伝えることができるとともに、仕事をする上で課題を発見・分析し、計画を立てて論理的に課題解決していけるようになるための教育領域である。 ・相手の立場や専門性に応じて多様な方法で円滑なコミュニケーションをとることができる。 ・相手の立場や専門性に応じて多様な方法で円滑なコミュニケーションをとることができる。 ・課題発見、情報収集、論理的な思考といった課題解決のためのスキルを実践することができる。			(1) 情報リテラシー	(1) 国語 I	(2) 国語 II	(3) 国語 III	(3) 情報倫理	(4) 情報工学実験 III	(4) 課題研究	(5) 卒業研究	(5) 情報工学実験 IV
【一般的な科目名】 ・PBL、卒業研究、共同研究、インターンシップ、国語、社会											
学習内容	到達目標	目標水準									
コミュニケーションスキル	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		1	2	3				3	
	他者とコミュニケーションをとるために日本語と特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3		1	2	3				3	
	他者が話す日本語と特定の外国語の内容を把握できる。	3		1	2	3				3	
	日本語と特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3		1	2	3				3	
	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3		1	2	2		3		3	3
	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3		1	2	2		3		3	3
合意形成	他者の意見を聞き合意形成することができる。	3		1	2	2		3			3
	合意形成のために会話を成立させることができる。	3		1	2	2		3			3
	グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3		1	2	2		3			3
情報収集・活用・発信力	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3		1	2	2		3	3	3	3
	収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3		1	2	2		3	3	3	3
	収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3		1	2	2		3	3	3	3
	情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	3	1	2	2	3			3	
	情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	3	1	2	2	3			3	
目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3		1	2	2		3	3	3	3	
課題発見	あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3						3	3	3	3
	複数の情報を整理・構造化できる。	3						3	3	3	3
	特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3						3		3	3
論理的思考力	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3		1	2	2		3		3	3
	グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3		1	1	2		3			3
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3		1	1	2		3	3	3	3
	適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3		1	1	2		3	3	3	3
	事実をもとに論理や考察を展開できる。	3		1	1	2		3	3	3	3
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3		1	1	2		3	3	3	3	

Ⅷ 態度・志向性(人間力)

【本科における教育領域の到達目標】 目標を持ち、自らを律しながら主体的あるいは他者と協調して行動することができる。また社会の規範に沿って適切に行動できるようにするための教育領域である。また、自らのキャリアデザインに対して将来にわたって学んでいく姿勢を身に付けることができるようになるための教育領域である。			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
【一般的な科目名】 ・PBL、卒業研究、共同研究、インターンシップ、体育、技術者倫理、社会(倫理社会、法律)			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
学習内容	到達目標	目標水準	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
主体性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	1		3		3	3	3	3		
	自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	1		3		3	3	3	3		
自己管理能力	目標の実現に向けて計画ができる。	3			3		3	3	3	3		
	目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3			3		3	3	3	3		
	日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3			3		3	3	3	3		
責任感	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3			3		3	3	3	3		
チームワーク力	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	1		3		3					3
	チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	1		3		3					3
	当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	1		3		3					3
	チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	1		3		3					3
リーダーシップ	リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	1		3		3					3
	適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	1		3		3					3
	リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている。	3	1		3		3					3
倫理観(独創性の尊重、公共心)	法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	1		3							
	他者のおかれている状況に配慮した行動をとれる。	3	1		3							
	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を上げることができる。	3			3							
未来志向性・キャリアデザイン	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3		3		3						
	その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3		3		3						
	キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3		3		3						
	これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3		3		3						
企業活動理解	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等どのように活用・応用されるかを説明できる。	3		3		3						
	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3				3	3					
	企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3				3	3					
	企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3				3	3					
	企業には社会的責任があることを認識している。	3				3	3					
	企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3				3	3					
	調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3				3	3					
	企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3				3	3					
	社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3				3	3					
	技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3				3	3					
技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を上げることができる。	3				3	3						
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3				3	3						

Ⅷ 態度・志向性(人間力)

<p>【本科における教育領域の到達目標】 目標を持ち、自らを律しながら主体的あるいは他者と協調して行動することができる。また社会の規範に沿って適切に行動できるようになるための教育領域である。また、自らのキャリアデザインに対して将来にわたって学んでいく姿勢を身に付けることができるようになるための教育領域である。</p> <p>【一般的な科目名】 ・PBL、卒業研究、共同研究、インターンシップ、体育、技術者倫理、社会(倫理社会、法律)</p>			(1, 2, 3) 体育実技 I	(1) 国際創造工学基礎	(3) 情報倫理	(3) 情報工学実験 II	(3) 特別活動	(4) 研修旅行	(4) 情報工学実験 III	(4) 課題研究	(5) 卒業研究	(5) 情報工学実験 IV
学習内容	到達目標	目標水準										
学習と企業活動の関連	企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3				3	3					
	コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3				3	3					

IX 総合的な学習経験と創造的思考力

<p>【本科における教育領域の到達目標】 工学的課題を理解し、その課題の解決のためにシステム、構成要素、工程等を創出できるようになること、さらにはクライアントの要求を解決するためのプロセス(企画立案から実行)を理解し解決策を創案できるようになることが目標である。</p> <p>【一般的な科目名】 PBL、卒業研究、共同教育</p>			(2) コン ピユ ータ アー キテ ク チャ 基礎	(2) 情 報 工 学 実 験 I	(3) 情 報 工 学 実 験 II	(4) 情 報 工 学 実 験 III	(4) 課 題 研 究	(5) 卒 業 研 究	(5) 情 報 工 学 実 験 IV
学習内容	到達目標	目標水準							
創成能力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3		3	3	3			3
	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3					3	3	
	要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	3			3	3			3
エンジニアリングデザイン能力	課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	3			3	3			3
	提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	3				3			3
	経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	4			3			3